

給之由、天氣所候也。仍執達如件。

天文十三年六月五日

(廣橋國光)  
左中辨 在判

白山惣長吏證辰法印御房

六月十五日。幕府奉行入等、順遍と實印との河北郡俱利伽羅長樂寺住持職并に同寺領の訴訟を勘進す。

【同事記録】

111011

順遍与實印相論加賀國俱利伽羅長樂寺住持職、同寺領等事

如順遍申狀者、彼住持職、同寺領等儀、實印更無其望之條不存知之趣、先年一行仕之間、以其筋目實印訴訟之段令不審之處、此儀一向不存知之。如何様之仁跡言上哉、驚入之旨致一行之條、令隨身罷上者也。構虚言於、掠給御下知輩者被加御成敗、如元可被成下御下知云々。

如實印弟性勢申者、彼寺事相副支證愚僧令相談、天文十年御對面之時、實印弟子以相談之上出頭申候。雖然至子細者實印言上之、今度申上所同前。仍實印越中國松尾

寺住持之處、順遍相語利波郡司片山、無理可出狀之旨申懸之間、有様仕遣之處投返、自彼方出案文可加判形、不然者可及迷惑之旨申候條、難遁之間案文判仕之由申候。其案文寫上、同以自筆其子細書上之恣所行云々。爰實印四月廿四日遣片山民部丞一行令出帶之、雖順遍申子細、既實印對少將性勢、同月廿九日一行在之、片山以權威不申子細、及迷惑之間令加判彼方案文云々。然者可謂押書者歟、甚以濫吹也。所詮可被成御下知於實印哉。宜爲上意矣。

天文十三年六月十五日

(飯尾) 大和守堯連  
(松尾) 平 賴隆  
(中津) 掃部助光俊  
左衛門尉秀以  
(飯尾) 左衛門尉晴長  
(松尾) 左衛門尉盛就  
(松尾) 對馬守盛秀  
(松尾) 前丹後守晴秀

十一月三日。石川郡白山宮惣長吏澄辰、禁裏御料所能美郡輕海郷の代官職に補せらる。

【白山比咩神社文書】

石川郡

111014

禁裏御料所賀州輕海郷御代官職事、被仰付于白山長吏白光院訖。然早年貢諸公事物、如先規對彼代可致其沙汰之由、堅被仰出候也。謹言。

天文十三年十一月三日

(山科言繼)  
藤 在判

當郷名主百姓中

天文十四年

乙巳

紀元二二〇五

四月廿八日。幕府、山城曼殊院門跡の北野社松梅院禪興を同門跡領江沼郡富墓莊代官職に補任するを承認す。

【曼殊院文書】

山城

111015

加賀國富墓庄上分參拾貫文事、就松梅院無沙汰、先年被糺決、任領主進止之法、被成直務之奉書以來當知行之處、今度以清光院爲禪興懇望、小島對馬守一行上雖被

補任、若向後不依多少於難澁者、可被改易云々。被聞食訖。可令存知給、由所被仰下也。仍執達如件。

天文十四年四月廿八日

(松田盛秀) 對馬守 在判  
(中津光俊) 掃部助 在判

竹内宮御門跡雜掌

六月八日。溫井總貞、山城東福寺栗棘庵に、河内畠山植長の卒去を弔する畠山義總の使者としてその僧を下向せしめんことを求む。

【栗棘庵文書】

山城

111016

將又遊佐豐後守未申通候へ共、只今以書狀申候。相意得可申入由候。

態一筆令啓候。仍尾州爲弔從此方之御使分、從貴寺御出世之御方御一人御下向候者、可爲祝着之由候。從屋形香奠千疋、從左衛門佐方同五千疋被差上候。御意得候而可被仰届候趣、相意得可令申旨候。彼家督未相定候間、直書者無之候。遊佐河内守方、從遊佐豐後守方之書狀迄候。可被成其御意得候。彼香奠已上六千疋、觀